

令和4年度 訪問看護出向事業報告会

～訪問看護ステーションの立場から～

令和5年3月11日(土)

三次地区医師会訪問看護ステーション「スクラム」

所長 福間かおる

三次地区医師会訪問看護ステーション「スクラム」の概要

- 所在地 三次市栗屋町
- 通常事業の実施区域 三次市全域
- 三次市の人口 49,557人(令和5年1月)
- 三次市面積 778.14km²
- 高齢化率 36.40%
- 三次市にある訪問看護：5ステーション
- 三次市にある病院：4か所



広島県 三次市



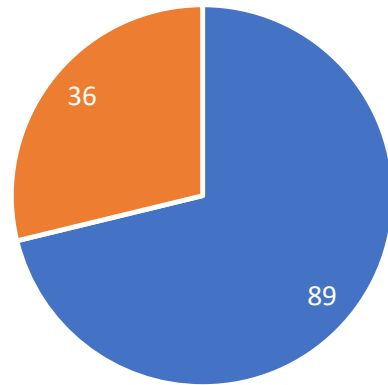
三次地区医師会訪問看護ステーション「スクラム」の概要

- 職員数 15人(看護師12人、ケアワーカー1人、事務2人)
- 利用者数 125人 (医療36人、介護89人)
- 訪問回数 624回
- 利用者平均年齢 医療：48.5歳、介護：85.1歳
- 特別管理加算 医療：18人、介護：33人
- 指示医数 58機関

※令和5年1月現在

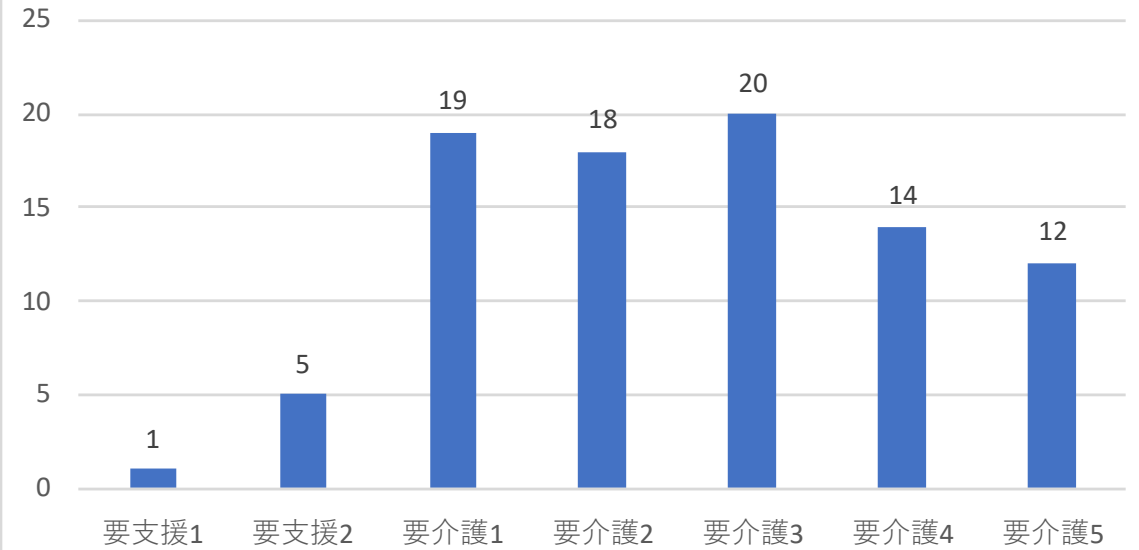
スクラムの業務実績【介護保険】

介護保険・医療保険 利用者割合



■ 介護保険 ■ 医療保険

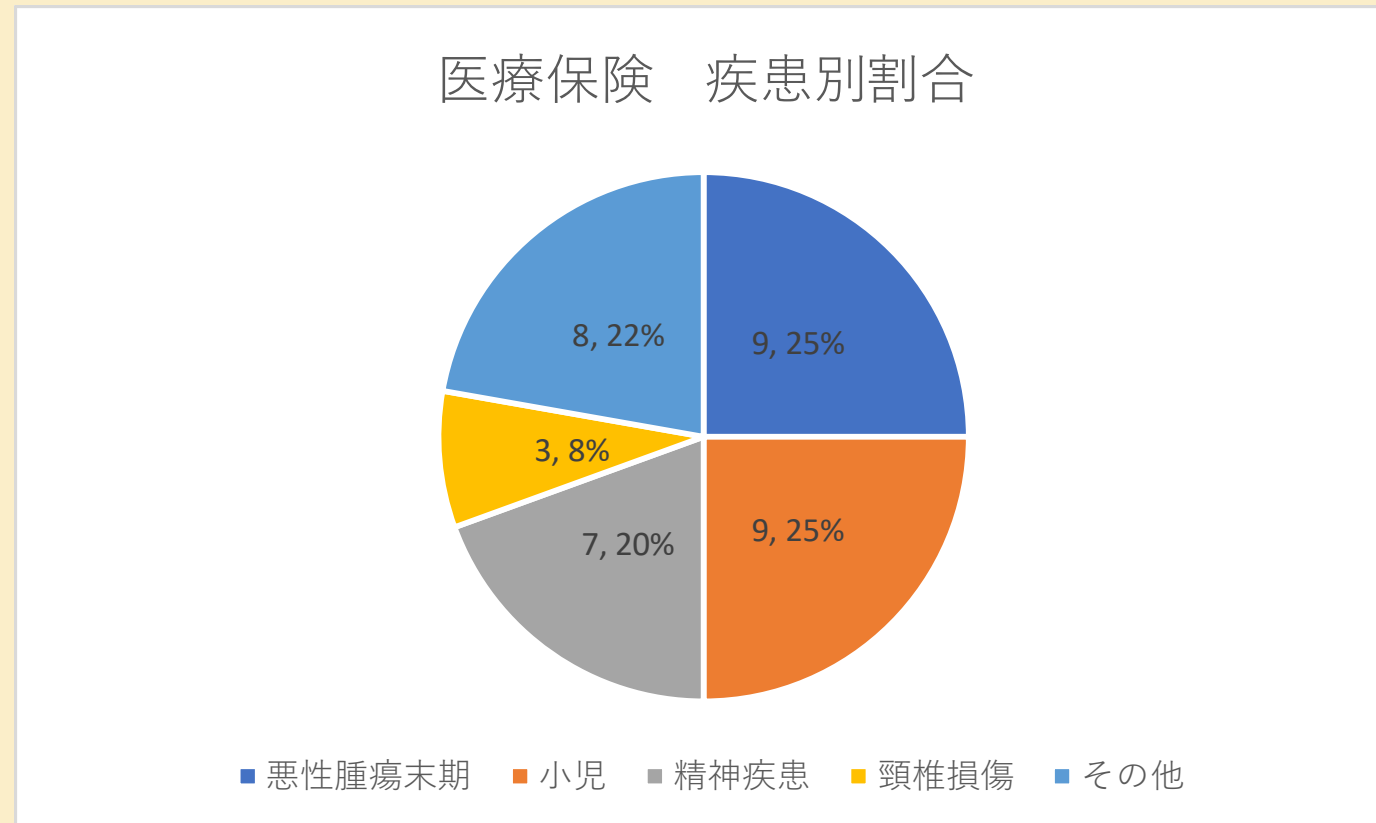
介護度別人数



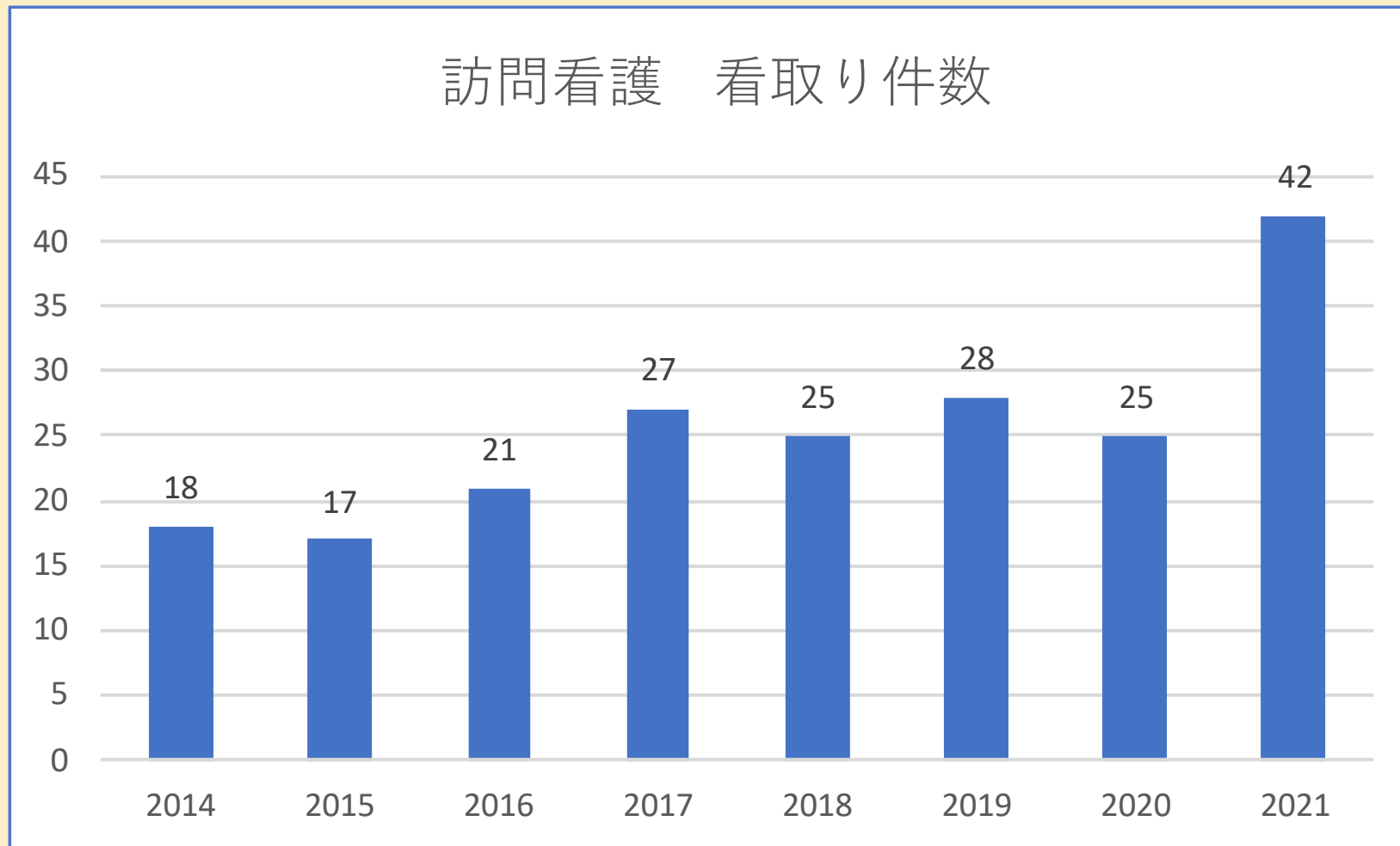
令和5年1月実績

スクラムの業務実績【医療保険】

■ 疾患別の割合



在宅看取り件数



出向者

- 市立三次中央病院
- 永岡奈穂子さん

- 看護師歴22年 職位：副看護師長
- 院内での所属部署：地域包括ケア病棟→コロナ感染症対応病棟
- 看護に関する資格：ケアマネージャー

- 出向期間：令和4年11月1日～令和5年1月31日(3か月間)

10月

• **事前準備**

- 組織内実施体制、担当の整備
- 各種事務手続き
- 物品等の準備
- 利用者や関係機関への案内
- スケジュール確認



11月

• **オリエンテーション**

• **同行訪問**

- 上旬：状態が安定している介護保険利用者
- 下旬：状態が安定している医療保険利用者
- 担当者会議等同行

12～1月

• **単独訪問**

- 退院時カンファレンス、サービス担当者会議等に積極的に出席
- 利用者を数人受け持ち、看護計画、報告書も作成
- 新規利用者の受け持ち

出向事業の実際

在宅での実際の生活を見てもらう

→出来るだけ多くの処置や場面を経験

→内服管理や生活環境、サービス利用の実際など

→出向元を退院されたり、通院されている利用者の訪問を優先

多職種連携の実際

→退院前カンファレンスやサービス担当者会議に同席

→ケアマネへや主治医との連携

出向事業の実際（1ヶ月目）

オリエンテーション

ストーマ、バルン管理

ターミナル、エンゼルケア

訪問診療に同行⇒地域の在宅看取りの状況や急変時の対応についての理解の促進

精神科

医療的ケア児の入浴介助

認知症、内服管理

認知症グループホームへの訪問

緊急時の対応、主治医への報告

利用者が新型コロナに感染⇒対応について助言してもらい、一緒に訪問

出向事業の実際（2ヶ月目）

単独訪問、主体的に

タブレットでの看護記録も積極的に

同行訪問も継続

受け持ち開始⇒初回訪問、カルテ整理

休日の緊急時の対応（担当者と一緒に）

訪問看護業務の習得状況評価表を一ヶ月毎にチェック

出向事業の実際（3ヶ月目）

- 単独訪問、同行訪問の継続
- 受け持ちの報告書、計画書の作成
- 居宅介護支援事業所の業務見学、訪問同行
- 地域ケア会議への参加
- 出向元病院でのターミナルの退院前カンファレンスに参加

⇒受け持ちし初回訪問

新規カルテ作成、看護計画立案

積極的に訪問、主治医やケアマネとの連携



出向の成果

訪問看護の理解の促進

- 多職種連携、顔の見える関係作りへの理解
- 在宅療養者への理解
- 実際の在宅での生活状況の把握

地域サービスの理解の促進

- 福祉、保健サービスの理解
- インフォーマルなサービスの理解
- 三次市の地域の特色やサービスの現状の把握

- 医療的な処置があっても、どんな状況でも、患者や家族が望めば様々なサービスを使って自宅で過ごす事が出来るという事を実感してもらえたのではないか。



退院支援や在宅サービスとの連携の向上
→在宅療養者の支援の向上

事業所の成果

- 病院での最前線の情報やスキルの提供



スタッフのスキルアップやモチベーションにも繋がった

- 病院との連携強化

出向の課題

- 緊急時対応や待機をどうするのか→出向元との雇用や給与の擦り合わせ
- 出向先の人員不足⇒もっと余裕を持って出向者のフォローが出来れば。
- 利用者の選定⇒事前の打ち合わせ内容などの再検討
- 出向者のスキルや経験に合わせた受入れプログラムの調整
- 時期

今後の取り組み

- 今回の事業だけで終わるのではなく、今後も継続していろいろな機関や事業所とも人事交流を行う

⇒地域で取り組む

- 病院との連携強化や関係作りの構築の継続

⇒利用者への安心に繋がる



ご清聴ありがとうございました

